

第 9 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.03
	安土桃山			

[問題 1]

次の文の()に適語を入れよ。

全国統一を果たした秀吉は、(①)も征服しようと考えます。そのためにまず、朝鮮を服従させようとしますが、拒否されたため2度にわたり軍勢を送り込みます。これを(②)といいます。初めは優勢でしたが、民衆の抵抗を受けて次第に苦戦し、特に(③)の率いる水軍に大敗しました。そして、秀吉の病死により兵を引きあげざるをえなくなりました。

[解答欄]

①明	②朝鮮侵略	③李舜臣
----	-------	------

[解説]

明の征服を目的に
 朝鮮侵略 → 李舜臣の水軍に敗れる
 朝鮮の陶工を連れ帰る → 有田焼
 宣教師の追放, 南蛮貿易は認めていた
 → キリスト教の禁止が徹底しなかった

全国統一を果たした秀吉は、中国の明の征服をめざして、朝鮮に大軍を送った。これを朝鮮侵略という。初めは優勢であったが、民衆の抵抗を受けて次第に苦戦し、李舜臣の率いる水軍に大敗し、秀吉の病死により兵を引きあげざるをえなくなった。朝鮮侵略のときに朝鮮から連れてこられた技術者によって有田焼などの陶磁器が作られるようになった。

豊臣秀吉は、キリスト教が全国統一のさまたげになると考え、宣教師の追放令を出した。

しかし、南蛮貿易は制限せず、外国の商船の来航をうながしたので、キリスト教の禁止は徹底しなかった

[問題 2]

豊臣秀吉の朝鮮侵略に際し、亀甲船を率いて戦った朝鮮の将軍は誰ですか。

[解答欄]

李舜臣

[問題 3]

朝鮮侵略のときに朝鮮から連れてこられた技術者によって陶磁器がつくられるようになりましたが、佐賀県でさかんになった焼き物の名前を答えなさい。

[解答欄]

有田焼

[問題 4]

文中の①～④にあてはまる語句を、下の[]から1つずつ選べ。

豊臣秀吉は、キリスト教が全国統一のさまたげになると考え、(①)の追放令を出しましたが、(②)は制限せず、外国の商船の来航をうながした。

また、(③)の征服を計画し、朝鮮に協力を断られると、1592年、朝鮮に15万人の兵を送った。たちまち朝鮮の都を占領したが、民衆の抵抗や(④)のひきいる水軍の抵抗でいきづまった。

[李舜臣 武田信玄 宣教師 僧侶 貿易 信仰 明 唐 シャクシャイン 元]

[解答欄]

①宣教師	②貿易	③明	④李舜臣
------	-----	----	------

[問題 5]

秀吉によるキリスト教の禁止が徹底しなかった理由を簡潔に書きなさい。

[解答欄]

南蛮貿易は認めていたから。

[問題 6]

戦国時代を統一していく 3 人の武将について、次の歌とア～キの各文を読んで各問いに答えなさい。

A 織田がつき B 羽柴がこねし 天下もち すわりしままで 食うは C 徳川

ア 関ヶ原の戦で、勝利して征夷大將軍になる。

イ 関白太政大臣の地位を得る。

ウ D 農民から武器を取り上げ、武士は農村から城下町に移す。

エ 長篠の戦い(1575 年)では、足輕鉄砲隊を 3 列にする作戦を考え、その活躍で(E) 氏を破る。

オ 全国の大名を「親藩」「譜代」「 F 」に分け、配置を工夫する。

カ キリスト教を保護し、各地の関所を廃止し、G 市場にかかる税をやめて、一部の商人たちの商業の独占をやめさせた。

キ 朝鮮に出兵の命令をだし、朝鮮国内に多くの被害をだした。

(1) A、B、C の武将の名前を漢字で書きなさい。(その人物の一番最後のよばれ方で)

(2) 「鳴かぬなら 鳴かせてみせよう ほととぎす」という句が表すのは A～C のどれといわれますか。記号で答えなさい。

(3) ア～キの各文はそれぞれだれのことを述べたものですか。A、B、C の記号で答えなさい。

(4) 下線 D の政策を何といいますか。

(5) エの長篠の戦いで破れた(E)氏はだれですか。名字を答えなさい。

(6) 「F」に入る語句は何ですか。漢字で答えなさい。

(7) 下線 G の政策を何といいますか。

(8) 歌の意味は次のうちどれがもっとも適切ですか。記号で 1 つ選びなさい。

ア 天下は 3 人が協力しておさめていたものなのだなあ。

イ 3 人の性格はそれぞれ違っているものなのだなあ。

ウ 結局、3 人の中で得をしたのは徳川さんなのだなあ。

エ 3 人は、当時の日本でいちばんもちをつくのがうまいのだなあ。

[解答欄]

(1)A 織田信長	B 豊臣秀吉	C 徳川家康	(2) B
(3)ア C	イ B	ウ B	エ A
オ C	カ A	キ B	(4) 刀狩
(5) 武田	(6) 外様	(7) 楽市・楽座	(8) ウ

[解説]

(1)(8) 「織田がつき」というのは、敵対する戦国大名や仏教勢力を打ち破って統一事業をおこなったのは織田信長であったことを示している。事業半ばにして本能寺で殺された信長の統一事業を引き継いだのは豊臣秀吉で、1590 年に統一事業を完成した。「羽柴がこねし」の羽柴とは羽柴秀吉(豊臣秀吉)のことである。「すわりしままで 食うは徳川」というのは、秀吉の死後、1600 年の関ヶ原の戦いで豊臣方を破り、1603 年に徳川幕府を開いた徳川家康のことである。信長・秀吉の統一事業の恩恵をこうむって得をしたのが家康であったということをいっている。

(2) 「鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」は織田信長、「鳴かぬなら 鳴かせてみせよう ホトトギス」は豊臣秀吉、「鳴かぬなら 鳴くまでまとう ホトトギス」は徳川家康の性格を、それぞれ言い表している。

[問題 7]

天下統一事業は織田信長と豊臣秀吉、そして徳川家康の 3 人によってなされたが、次の事の中から、信長に関係あるものに A、秀吉に関係あるものに B、家康に関係あるものに C をつけなさい。

- (1) 全国の田畑の広さと収穫高を調べて石高制度をつくった。
- (2) 関ヶ原の合戦で勝利して幕藩体制を築いた。
- (3) 南蛮貿易は認めたが、宣教師を追放した。

[解答欄]

(1) B	(2) C	(3) B
-------	-------	-------